

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791000037		
法人名	社会福祉法人 湖星会		
事業所名	グループホームオハナハウス		
所在地	福島県二本松市高田1番地1		
自己評価作成日	平成25年3月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	平成25年3月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して3年目になり、家族様、地域の方々をはじめ、たくさんの方の支えをいただいております。二本松の住み慣れた地域でこれからも、安心して過ごして頂きたいとを大切に個々が役割をもって生活されています。たくさん笑顔がみられる様になっています。地域の行事参加や、同法人との交流を深めていく中で、馴染みの関係づくりや、お客様同士思いやる気持ちなど家族、仲間、絆の関係を伺うことが出来ます。お客様の健康管理では、、、医療機関との連携、家族との協力、職員間の連携に努めております。オハナハウス他事業所合同の行事企画からお客様、職員との顔なじみの関係も一層深まり、地域の方々から親しんでいただける施設として職員一同努めています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者はじめ職員全員で利用者の立場に立った支援を考え実行している。事業所独自に「気づきのカード」を作成し、検証しながら改善していくことで利用者個人に適した介護支援ができるよう努力している。景色が良く見える大きな窓や明るくゆったりしたフロアが印象的で、さりげなく寄り添う職員の態度が自然に行われている。利用者からは笑い声が聞かれ、職員に対する信頼と良好な関係が感じられた。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり事業所に掲示し、職員間で共有している。事業所会議の議題に取り入れ、職員全体で事業所目標を作成・評価し実践につなげている。	法人の理念と共に、事業所独自の今年度の重点事項『身体の具合に常に気を配ります』をフローに掲示し、いつも確認しながら職員全体で積極的に実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のイベント時には地域の方に声をかけて参加していただいたり、催しをお願いしたりしている。又、地域のお祭り等へ参加したり、馴染みの地域の人との交流を深めている。	区長さんの協力があり、広報誌の配布や事業所のイベント参加などが徐々に増え、事業所の存在が地域に意識されてきている。地域の方から野菜を頂いたり、スーパーへの買い物・近くのゴミ拾いや散歩の時など挨拶や声掛けが有り、日常的に交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回、ご家族様や地域の方へ向けての介護教室を催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の近況や予定を報告し意見をいただいている。介護教室開催年間日程表作成の提案を受け、実施しサービス向上に努めている。	民生委員や区長・地域包括などの出席により定期開催されている。状況の報告だけでなく、地域に向けた介護教室開催などの要望を受け、積極的に対応することで地域との繋がりに努めている。会議の意見等を受け、解りやすい看板の設置などサービス向上に努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員には、運営会議に出席いただき、事業所に対しての理解及び意見をいただき事業所のサービス向上に努めている。	市の担当者から制度的なアドバイスを受けたり、市直営の地域包括とはケースの対応や勉強会など協働関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の勉強会、事業所の勉強会で身体拘束に対する理解を深め、日常的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日常の話し方や行動の制限など、勉強会の実施によりケアの改善に努めている。「気づきのカード」が利用者個人毎に作成され、気づきの改善内容をカンファレンスや記録で職員全体が共有し、身体拘束をしないケアについても実践・検証が行われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人の勉強会に参加し、高齢者虐待防止関連法について理解を図っている。職員会議等にて共通の理解を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人の勉強会に参加し制度の理解を図っている。現在は、制度を利用している方はおりませんが、今後、職員会議等で状況については話をして理解を深めていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項の説明をきちんと行い理解を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時や、運営推進会議で気軽に意見を出してもらえるように促している。	年1回実施のアンケートから利用者家族の意見や要望を把握し、面会時や会議などの会話の中から細かな要望・意見をくみ取り、運営や利用者の生活の改善に繋げるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議時、面接などで職員の意見を聞き、話し合い、サービスに活かしている。	管理者と職員の個人面談を年2回実施している。話しやすい雰囲気努め、職員個人目標の設定・自己評価のアドバイスなども行われている。部門の同僚・上司との連携が良く、管理者へ意見や要望が伝わるような体制ができている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理を年2回行い職員個々も努力し、実績確認をしている。職員のやりがいや、質の向上の為、人材育成事業として階層別。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、職員の段階に応じた研修が受けられるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設して3年目であることから、管理者としての研修を踏みながら現在に至る。今後は、ネットワークづくりに一層努めていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々お客様とのコミュニケーションを図り、本人様の思いに気付けるように努めている。事業所会議等で職員間で共有している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や、お客様アンケート調査(年1回、)等で要望を聞きながら速やかな対応をしている。同事業所お客様、職員との関わる機会をもち、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで待機されている方が、来所された際、見学してもらったり、他の方の様子を見ていただき不安がないか伺っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付けをお客様と共に行い、お客様を支えるだけでなく職員もお客様に支えていただき暮らしを共にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、お便り等で日々の様子をお伝えしている。面会の少ないご家族様にもお客様の要望等のより、面会に来ていただけるよう積極的に調整に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が訪ねてきた際は、ゆっくりと過ごしていただけるように場所を作りお茶など召し上がりながら、また来ていただけるよう声掛けしている。	馴染みの理髪店やお店などへ家族の協力や職員の対応で出かけている。 面会を推奨し、家族や地域の方々と楽しく会話ができるよう配慮されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の交流や、コミュニケーションが図れるよう気配りをしている。お客様のトラブル等。職員間で共有し、サポート体制を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した後、他z業所への入所されたお客様への面会をおこなっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との日々の会話の中から気づきや思いを記録に残す事で、職員全体で把握している。	利用者本人の話に耳を傾け、日常の会話や行動から思いや意向を把握し、「気づきのカード」を活用して職員が共有できるよう努めている。 利用者の情緒的な変化にも細かく注意され、統一された対応もなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を基に、利用後も本人様、家族様から話を聞いて生活歴の理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様一人一人の24時間シート取り組み、日々のケース記録から、職員全体で状態の変化についての把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様の希望を聞き、事業所会議等で職員で話し合い、介護計画書を作成している。毎月のモニタリングを実施し計画書の見直しをしている。	利用者本人や家族の意見・情報を基に職員の意見等も含めて担当者が介護計画を作成している。 定期モニタリングの内容や家族の意向・急激な変化など、利用者の状況に合わせて介護計画の見直しを行い、適切な支援が実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事業所会議での、モニタリングでお客様の気づきや変化等の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際、本人様の状態や、家族様の状況に合わせて対応している。施設対応や、病院での同行など、柔軟に対応を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れなどおこなっているが地域支援の把握がまだ足りていないので今後、積極的に受け入れ体制を図っていきたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、お一人が、入所前からのかかりつけの病院に通院しており、通院後に報告を当日に行い、家族様対応のお客様にも、必要に応じて対応している。	入所時にかかりつけ医の変更は無く、やや遠くても受診・通院は行っている。毎回情報提供が行われ、家族から受診後の報告もある。家族の希望により職員の受診対応も行われ、受診後の家族への報告もなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化に気を配り、変化が見られた際には、看護師、管理者に報告し対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、相談員との連絡を図り、入院の様子を見に行ったり、家族様にも報告し早期退院できるよう連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの事例はないが法人の指針に沿っての勉強会等で施設のあり方、心構えについて共有している。	これまで看取りの希望はない。今後の課題として、事業所のあり方や意識・心構えについて勉強会を実施するなど職員が共有できるよう努めている。	本人や家族と今後の意向について十分に話し合い、事業所で出来ること・出来ないことを説明しながら終末期に向けた方針が共有でき、予想される重度化や終末期に向けて、本人や家族の希望される意向にあった支援ができるよう期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し併設事業所との連携を図るよう努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練を実施している。地域の方(区長様)の参加を得ることでできているが、今後は、地域の方の多くの参加を図っていきたい。	定期的防災訓練を実施し、近隣に避難場所を確保するなどの体制もできている。特に、車いすや杖を使用しているなど移動困難な利用者に重点を置いた訓練も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の会話や、関わりの中でプライバシーを損ねる事がないように気を付け対応するように事業所会議等で話し合っている。	年1回の勉強会を実施し、職員の人権意識や守秘義務について意識を高めている。同性によるトイレへの誘導や名前での呼びかけなど、日常的にさりげなく言葉かけや対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意思を大切に、レクリエーションの参加、入浴の有無など本人の希望を自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートから、日々の過ごし方など、一人一人のペースで生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望に合わせて馴染みの店に買い物に出かけたり、自分の着たい服を選択していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の感想をお客様に聞いたり、食べたいメニューを取り入れたりしている。食事の準備や、後片付けも一緒におこなっている。	利用者家族が持参したり、地域から頂いた野菜などを活用することで地域にあった馴染みのメニューを楽しんでいる。 希望があれば飲酒も対応されている。 職員も一緒に食事を行い和やかな雰囲気が保たれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量のチェックを記録に残し、その方に応じた食事形態の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様に声掛けを行い、口腔ケアの介助、見守りをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックから、本人様のパターンを確認し職員間で共有を図っている。本人様のサインにより、誘導をすることにより出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄パターンを把握し、利用者の様子からされげなく寄り添いながらトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツやパットも利用者に合わせて対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確認し、便秘予防に努めている。摂取量の少なめの時など、本人様の希望を聞き対応している。医療機関からの下剤調節を行うなど、こまめな水分摂取をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様の入りたい時間を聞いたりして(午前、午後)柔軟に対応している。入浴を楽しみしていただけるよう工夫している。	入浴剤の使用や音楽をかけたり、楽しい雰囲気を大切に考えている。利用者の希望される時間帯に合わせ、1対1の職員対応を行っている。嫌がる場合でも2・3日に1回は入浴できるよう働きかけ、清拭対応なども行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人のペースに合わせて休息して頂き、眠れない方には、職員と会話したり好きな飲み物を提供したりして安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などがあつた際、併設の看護師に報告し、注意点を申し送りを行い、その後、職員で共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、新聞取り、洗濯たたみ、掃除など、一人一人役割をもってお客様が出来る事への支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出の企画をおこなう。、地域の祭りに参加したり、個別にて外出、本人様、家族様の要望などで支援をおこなっている。	日向ぼっこや散歩、買い物や施設周りのゴミ拾いなど職員の支援が行われ、外の空気を感ずる機会が多い。花見や地域のイベントなどにも積極的に参加し家族や地域と協力しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、自分で持つ事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への年賀状や、手紙のやりとりをして交流を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のカレンダーを飾ったり、季節の行事の写真を展示し環境づくりに努めている。	利用者の作品や誕生会の写真などが飾られ、ゆったりしたスペースにやわらかな光が心地よい環境を作り出している。 キッチンカウンターから職員が常に利用者を見守り、声掛けをするなど安心感を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫したり、気の合う方との会話ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の大切にされているアルバムや、使い慣れた物をもって来ていただいている。	利用者の生活習慣に配慮し、明るく清潔な居室空間が保たれている。 大切なペットの写真などを飾りゆったりした空間で本人が落ち着いて生活できるよう、居心地良い雰囲気づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており、物の配置に工夫し安心安全な生活が送れるよう配慮している。		